

2025(令和7)年度事業計画

理念

共生社会に生きる私たちは、自分自身を大切にし、社会の一員としての役割を果たしながら、同じように周囲の人々を大切にして共に生きる努力をします。

基本方針

1.就労支援

- 1) 一般の事業所に就労移行される方々には、必要な訓練と就労活動を共に行います。
- 2) 継続して福祉的就労を希望される方々には、作業量を確保し、自立するための高工賃を目指します。
- 3) 安定した基盤を土台とし、事業の内容を常に検証します。

2.質の向上

共に与えられた人生の質を高めるために、職員は福祉従事者としての専門性を知識と技術において絶えず向上することに努力します。

施設運営方針

1.経済的自立の達成

生活基盤である衣食住の自立を達成するために積極的に就労作業に取り組むことができるように支援します。

2.社会的自立の確立

社会の一員であることを自覚し、進んで役割を負い、全てのことに責任をもって生きることができるよう支援します。

3.共生社会の実現

お互いに言葉と感性を通して理解を深め、相手の人格を大切にし、助け合いの生活を通して共存共栄の生き方を求め続けます。

事業計画

《法人》

1.安定した法人運営への取り組み(利用者の高齢化、障害重度化への対応)

令和6年度、施設利用登録者は微増したが、障害特性、利用者本人や家族の高齢化により、毎日の利用が難しい人が増加した。1日の平均利用者数は、定員34名に対して約30名(前年比2名減)となり、今後も入所支援等の福祉サービスや介護保険への切り替えが想定される人もいる。日々の定員を充足出来るように、見学や実習の積極的な受け入れや関係機関との連携により、登録者を増加するように取り組む。また、高齢化やそれに伴う機能の低下が進行する利用者に対応するための支援方法や作業内容も必要に応じて検討する。

2.就労選択支援事業(新規事業)の検討

令和7年10月に、新たな障害福祉サービスとして就労選択支援事業が開始される。今後、就労系の福祉サービスの新規利用希望者には、この事業が行うアセスメントが必要となる。市の福祉計画の動向を注視しながら、選択支援事業の指定を受けるか否かの検討を行う。

3.積極的な情報発信

ホームページのリニューアルを行い、事業所での活動の様子、行事、地域における貢献活動などの情報発信を積極的に行い、事業所(法人)の認知度を高める。

《施設》

1.環境の整備(和式トイレの洋式化)

以前は、和式トイレのみを利用される人がいた為、洋式と和式のトイレを併用活用していたが、最近では和式トイレの利用者が著しく減少している。和式トイレを洋式に改修して、トイレの混雑を解消し、快適な環境に整備する。

2.照明器具(蛍光灯からLED)の転換

令和5年度に、4作業室内の2作業室の照明器具を蛍光灯からLEDへの切替えを行ったが、残り2作業室及び共有スペース、事務所等の照明器具を、令和7年、8年度の2ヶ年計画で、蛍光灯を全てLEDへと切り替える。一部は、バッテリー内蔵型のLEDとして、災害等の停電時に備える。

3.職員の支援技術の向上(積極的な研修受講)

施設利用者の多様化、現利用者の高齢化や障害の重度化により様々な支援が求められている。月に2回実施している支援会議の中で、実際に直面した難しい対応や支援を取り上げ、全職員で支援方法や対応方針を検討(事例検討)して、支援方法の標準化、支援技術の向上に取り組み、利用者の利用満足度を上げる。また、身体拘束や虐待の防止、権利擁護のための研修・会議を定期的に行う。

《就労支援(授産)》

1.就労支援売上向上への取り組み(受注作業の開拓)

令和6年度の就労支援売上高は、前年度と比較し10%の減少が見込まれる。印刷関連の委託作業の受注が伸び悩む中、他産業や分野で担えそうな作業の新規開拓を行い、利用者の工賃を維持する。併せて、利用者的高齢化、障害の重度化に対応できる作業や治具の検討を行う。

2.農福連携への取り組み

農業従事者の高齢化や後継者不足の中、農業と福祉の連携による農福連携活動が広がりを見せている。山口県内でも、農福連携関連の研修、意見交換の場が設けられており、防府市内では、JA等と連携して、農業者と福祉事業者とのマッチングが行われている。作業依頼があれば、利用者の特性や受注作業量を見極めながら協力を行う。

3.一般就業への定着支援職に向けての活動

令和6年度は、就労継続支援B型・就労移行支援事業より1名の利用者が一般企業への就職に結びついた。雇用が継続するよう支援を行う。

2025(令和7)年度施設概要

1.職員配置状況(令和7年度)

正規職員 男 5名 女 1名 計6名
非正規職員 男 1名 女 4名 計5名 合計11名

職種 施設(定員)	施設長 (管理者)	サービス管理 責任者	生活支援員	就労支援員
就労継続支援 B(34)	1	1	1	
就労移行支援(6)			1	1
就労定着支援(20)				

職業指導員	目標工賃達成 指導員	就労定着支援員	事務員	合計
5,0	0		(兼務1)	正規6 非正規5
0.5	0			
		0.5		

最低基準

就労継続支援B型

サービス管理責任者 1名(兼任)

職業指導員／生活支援員 6：1(生産活動強化型)

就労移行支援

サービス管理責任者 1名(兼任)

就労支援員 1名 職業指導員／生活支援員 6：1

就労定着支援

サービス管理責任者 1名(兼任)

就労定着支援員 1名(兼任) 40：1

2.施設利用者数(4月見込み)

就労継続支援 B型(定員34名) 42名

就労移行支援(定員6名) 4名

就労定着支援(定員20名) 9名

3.目標工賃 平均月額 30,000円

作業種目 紙器・製函(受注約25社)、委託請負作業(4社)

令和5年度工賃実績 心促福祉作業センター(就労継続支援B型) 30,627円／月
(時給換算 243円／時間)

参考：県内就労継続支援B型平均工賃 26,558円／月

2025(令和7年)度行事予定表

法人関係

理事会	3回(5月・6月・3月)	
監事監査	1回(5月)	
評議員会	2回(6月・3月)	
評議員選定解任委員	(5月)	
山口県障害福祉サービス協議会理事会	3回	所長
山口県社会就労センター理事会	3回	所長
山口県社会福祉法人経営者協議会総会	2回	理事長
山口県社会福祉法人経営者協議会法人等役員セミナー	2回	理事長
山口県社会福祉法人経営者協議会経営力向上セミナー	2回	理事長

施設関係

健康・衛生・防災関係

職員健康診断	1回(4月)
利用者健康診断(40歳以上)	2回(8月)
利用者健康診断(40歳未満)	1回(8月)
防火避難訓練・消火訓練	2回(4月・10月)
防災訓練	1回(9月)
防犯訓練	1回
血圧測定	随時
検温検査	毎日
ラジオ体操	毎日

就労センター関係

全国社会就労センター総会	1回	所長
中国・四国社会就労センター総会	1回	所長

研修会

施設内研修(ビジネスマナー)	全職員
施設内虐待防止研修	全職員
施設長研修会(全国社会就労センター)	所長
同(全国社会就労センター総合研究大会)	サービス管理責任者
同(中国・四国社会就労センター)	所長
職員研修会(全国社会就労センター)	職業指導員
同(中国・四国社会就労センター)	職業指導員
同(山口県障害福祉サービス協議会)	職業指導員
同(防府市社会福祉施設連絡協議会)	職業指導員・生活支援員
経理担当職員研修会(山口県社会福祉法人経営者協議会)	経理担当職員
福祉サービス苦情解決担当者研修会	担当職員
障害者虐待防止・権利擁護研修(山口県)	担当職員
障害者支援に携わる方のための研修会(防府市総合支援協議会)	担当職員

協議会・運営委員会等

右田地区社会福祉協議会 総会(1回)	所長
山口県障害福祉サービス協議会 総会	所長
山口県障害福祉サービス協議会 就労部会	職業指導員
山口県社会就労事業振興センター総会	所長
防府市社会福祉施設連絡協議会(3回)	所長
防府市総合支援協議会 就労部会(12回)	サービス管理責任者、担当職員
防府市総合支援協議会 研修部会(随時)	担当職員
防府市社会福祉法人地域公益活動推進協議会	所長
防府総合支援学校評議員会(2回)	サービス管理責任者
鳴滝園障害者就業・生活支援センター	
業務運営連絡協議会・定例会(3回)	サービス管理責任者
山口県障害者雇用合同面接会(1回)	就労支援員

※研修・会議には、リモート型参加によるものも含まれます

スポーツ・レクリエーション

保護者会	4月
キラリンピック	5月
防府市障害者体育大会	6月
防府市ふうせんバレーボール大会	6月
まりふ福祉祭り	7月
うなぎ弁当	7月
ボーリング	9月
研修・慰安旅行(日帰り)	11月
クリスマス茶話会	12月
20才のお祝い会	1月
防府市障害者ふれあい芸術展	2月
防府市社会福祉施設職員親睦バレーボール大会	2月
防府市障害者親睦卓球大会	3月

地区交流・施設開放・地域貢献活動

地区清掃	5月
実習生受入れ(防府・山口・山口南・附属・他各総合支援学校 ・相談支援センター・若者サポートステーション等)	随時
こども 110 番の家	通年
学校・各種団体見学・研修会受入れ	随時
右田小学校放課後チャレンジ教室への協力	随時
右田・玉祖地区の地域活動への協力	随時

定例行事

定例職員会(行事)	1 2回(毎月 1 回)
利用者支援会議	2 4回(毎月 2 回)
利用者互助会(年 2 回)	